



杉本家集

巻九

二

5044



新也 経てはま ちりるの あり
あておし せり せり せり

精進

新くのかき せり せり せり

せり せり せり せり

せり

せり

せり せり せり せり

せり せり せり せり

松屋 せり

せり

せり せり せり せり

せり せり せり せり

せり

せり せり せり せり

せり せり せり せり

せり

せり せり せり せり

たぐわくをゆきく川

多気 院梅 山本正臣の著

あしあして噴や梅その野々よめ
るあふ の名くうれい

蕨者

たゞしくをきけくしききもむのむえん
ふとたうしふくしきしき

くまは稚たむのやうしききあき
あはくやわくはくくん

杉残 甘田多助の著

あしあはむのききしきき
あきのこのくもくうの

五木

あしあはむのききしきき
あきのこのくもくうの

比叟杉残 清水廣正の著

あしあはむのききしきき
あきのこのくもくうの

江と春とをわ

おらんまはゆの陰をぬくかみつる春
もそこの影は江の春

梅久履 一柳千古の春の花を

春とよはり枝のこころ梅のかり
きらめきおしやとてうけ

悪く立者

春とよはり枝のこころ梅のかり
きらめきおしやとてうけ

おまの記を 春の記言正月廿五日

りのまの記を 春の記言正月廿五日
あるまの記を 春の記言正月廿五日

弓

梅弓的まの記を 春の記言正月廿五日

あるまの記を 春の記言正月廿五日

あるまの記を 春の記言正月廿五日
はあなまの記を 春の記言正月廿五日

春の記言正月廿五日

新柳は...
は...
蛙

水...
あ...

度嶺梅

春...
雪...

とら園...
とら園...

さ...
た...

三縁...
三縁...

あ...
う...

軒...
は...

さ...
さ...

あ...
あ...

一にちや一のまにのてれ
たつしんまふらうまふ

藤人

美松山めめいさむがむ
ばーんてこがむ藤人

あいにる

きまいあふらうまふらう
あふらうまふらう
あふらうまふらう
あふらうまふらう

高の

あふらうまふらう
あふらうまふらう
あふらうまふらう
あふらうまふらう

あふらうまふらう

あふらうまふらう
あふらうまふらう
あふらうまふらう
あふらうまふらう

あふらうまふらう

あふらうまふらう
あふらうまふらう
あふらうまふらう
あふらうまふらう

高の
あふらうまふらう

沼月

あはれ月あはれは夜をくぐりてあはれ月あはれは
よのけのたれにこころを

地柳

かざりけのけの柳こころをひきよめ
ささげんささげんは月をひきよめ

いなるなるるるのほろろ

はるるるのささげんは月をひきよめ
いなるるるるるのほろろ

東洋

あはれ月あはれは夜をくぐりてあはれ月あはれは
よのけのたれにこころを

地柳

かざりけのけの柳こころをひきよめ
ささげんささげんは月をひきよめ

東洋

あはれ月あはれは夜をくぐりてあはれ月あはれは
よのけのたれにこころを

葉のつとふりて。花のつとふりて

十と花をて花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて花のつとふりて

花のつとふりて

やまのこけりわらわ

新の歌

ふりかへりてはなれりてはなれり
たのしみはなれりてはなれり
あはれはなれりてはなれり
のこころはなれりてはなれり

かたはれはなれりてはなれり
くはなれりてはなれり
たのしみはなれりてはなれり

かたはれはなれりてはなれり

のこころはなれりてはなれり

あはれはなれりてはなれり

たのしみはなれりてはなれり

あはれはなれりてはなれり

あはれ

あはれはなれりてはなれり
あはれはなれりてはなれり

あはれ

まはらばのしるしをとりて
くまのしるしをとりて
まはらばのしるしをとりて
くまのしるしをとりて

あまのこ

あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ

あまのこ

あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ

あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ

あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ

あまのこ

あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ

あまのこ

あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ
あまのこはあまのこ

有るもの柄にんまのなからあ
らぬものをいふにんまの
まらぬものをいふにんまの

いふにんま

いふにんまのなからあ
らぬものをいふにんまの

いふにんまのなからあ

いふにんまのなからあ

いふにんまのなからあ
らぬものをいふにんまの

いふにんまのなからあ

いふにんまのなからあ
らぬものをいふにんまの

いふにんまのなからあ

いふにんまのなからあ
らぬものをいふにんまの

いふにんまのなからあ

いふにんまのなからあ

いふにんまのなからあ
らぬものをいふにんまの

いふにんまのなからあ

三つん
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おんま
おんま
おんま
おんま
おんま

おのれは

Amami

よきことなるは

いふことなるは

る世のむね

如き

古きものなるは

の世なるは

強中

いふことなるは

一に

二に

三に

世

よきことなるは

いふことなるは

如き

古きものなるは

の世なるは

しんまのよめまゝしてゐるさうだ
おれにふくはふくはふくはふくは
ふくはふくはふくはふくは
ふくはふくはふくはふくは

花

ふくはふくはふくはふくは
ふくはふくはふくはふくは
ふくはふくはふくはふくは

ふくはふくは

ふくはふくはふくはふくは
ふくはふくはふくはふくは

ふくはふくはふくはふくは
ふくはふくはふくはふくは

ふくは

ふくはふくはふくはふくは
ふくはふくはふくはふくは

ふくは

ふくはふくはふくはふくは
ふくはふくはふくはふくは

ふくは

Handwritten text in cursive script, likely a title or header.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific section marker.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

おつゝのこゝに 知事しむ ありては かく
文少ゆゑ

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

船のこゝに ありては かく ありては かく

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

葛蒲根名

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

あつゝのこゝに ありては かく ありては かく

養五月毎

あつたゆめのかげに
おとけのうらみ

持子のうらみ
おとけのうらみ

あつたゆめのかげに
おとけのうらみ

あつたゆめのかげに
おとけのうらみ

あつたゆめのかげに
おとけのうらみ

あつたゆめのかげに
おとけのうらみ

あつたゆめのかげに
おとけのうらみ

南無

あつたゆめのかげに
おとけのうらみ

あつたゆめのかげに
おとけのうらみ

かきかき

たのむるまのふとせむしん
まらちいひはむらむらむらむらよ

ま(り)五月雨

かきかきかきかきかきかき
きりかきかきかきかきかき

まきまき

かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき

かき

かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき

かき

かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかき

しるし

あはれなる神の御心

ほれあつた神の御心

ほれあつた

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

おのれを御心

かどわくせいのしん
まはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝ

学少のまはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ

はるゝはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ

五色松梅とらのみ

りて

はるゝはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ

あつてはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ
はるゝはるゝはるゝはるゝ

あはれとてまじりしは

まじりしは又くしの屋み

目よりして人か

あはれ

あはれとてまじりしは

あはれとてまじりしは

あはれ

あはれとてまじりしは

あはれとてまじりしは

あはれ

あはれとてまじりしは

あはれとてまじりしは

あはれ

あはれとてまじりしは

あはれとてまじりしは

あはれ

あはれとてまじりしは

あはれとてまじりしは

あはれとてまじりしは

